

はくかんさん つうじている

第77号 H23年春彼岸

伊豆市 法住寺 発行

立春も過ぎたある晩、私は夢をみていた。それは夢というよりは、もうちよつとはつきりして意識であったようにも思う。

*

「つうじている」と云われたのである。お姿は、はつきりしなかったが、そう伝わったのである。夢うつながら寿量のご本仏だと直感した。そして「つうじている」を考えていた。

*

私は、毎朝、大太鼓をたたきお題目をお唱えしている、朝勤である。このお題目が先祖各位、境内お墓・地域全体、遠く檀信徒各家に行き届きますようにとお唱えするのである。

そして私と仏さま、檀信徒・地球・宇宙が一体になりますようにと祈るのである。もと

より私たちの個々が一体になることは物理的に有りようがない。しかし個々は単にバラバラではなく、何かがある。

そんな思いを持っていた折り、毎月の勉強で次のような話があった。「魂↑心↑体」とあって、体は一つになれないが、魂は一つになることができる。心はその中間で、それぞれの心が同じ方向を向いたとき、魂は一体となることができる。たとえば小さい子が何人かいて、その中の一人が泣き出すと、他の子も涙も分らず泣き出したりする。言われてみれば大人でも一人が朗らかだとその場が明るくなる。また混雑する電車内で、両手に沢山の荷物を抱え困っている方に「荷物を持ちましょう」の一言で、車内がサクッと爽やかになったりする。無私無欲の時は魂が感応し合い、一体となることができるというのである。ちなみにこの勉強会の講師は、遠く、四国の香川から、毎月、伊豆まで足を運んで下さっている。

*

「つうじている」は「通じている」であった。ご本仏が「毎朝のお題目は私に通じている」と伝えて下さったのだと思った。

毎朝の大太鼓を通してのお題目は通じていたのだ。そう思うと確かな意識として、私

から宇宙に通ずる、怒涛のように広がり続けるものを感じるのである。とても朗らかな嬉しい心持ちとなった。

*

時計を見ると夜中の三時を過ぎていた。夢を見たのは二月十日の午前三時であった。この日は日蓮宗大荒行が成満する日であり、最後の水行が始まる時刻だった。

今年も多くの修行僧が身をかけて百日間祈ったことであろう。その祈りがもの凄く大きな魂の塊(かたまり)となって宇宙に広がり、私にまで届いたのだと思った。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

今日の法話の中に「欲をかって自分の処に何もかも、かき集めようとすると逃げていく。しかし無心に人の為にと施している、不思議と良い縁が寄ってくる」とありました。それを見聞きながら、今朝のテレビで見た出来事を思い出ししていました。

*

正月の大雪で島根の国道が大渋滞、沢山の車が雪の中で動けなくなっていました。

その殆どの車が、ガソリン切れにならないようエンジンを切り、大雪の中、車内で震えていたといえます。その時、沿道の方々が自宅前に「トイレ↓」の看板を出し、自宅のトイレを解放したのだそうです。またある饅頭屋の老夫妻は、更におにぎりや温かなうどん等を作って提供しました。その中に幼児をつれた親子連れがいて、「あつたかいものをもらってホントウに良かったねえ」と、母親が子供に話かけるのを聞き、ホツとしたという老夫婦。

＊

後からお礼のハガキが、その親子から届きました。私が感動したのは、そのハガキを受け取った老夫婦の姿でした。「ありがとう」、「ありがとう」と、そのハガキを額にかかげ、大切におし頂いて、感謝しているのです。

あの大雪中、何人も人が寒い中、トイレを貸してもらい、温かな食べ物をもたらしてどれ程救われたことでしょう。更に救われたのはその人々だけでなく、手を差し伸べた老夫婦を含めた沿道の人々も、心が救われたのだと思います。「ありがとう」と言う方も、言われる方も、大切なものを貰うのだと思える出来事でした。

寿量の祈り

一日十円貯金、振込みを

寿量の祈り

- 一 大自然 ありがとうございます
- 一 社会の皆さん ありがとうございます
- 一 ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます

南無妙法蓮華經

一日一回は、寿量の祈りをしましょう。そして十円貯金しましょう。毎日続けると年間約三千六百円、その三分の一、千二百円を寿量の会に寄付して欲しいのです。残りの二百四十円は、自分自身で社会を見て、この世の中を良くしようと一生懸命活動している団体等に寄付して欲しいのです。

寿量の会に頂いた寄付金で、寿量の祈りを広めたり、寿量の杜を整備したりしていきます。

年度末になりますので、ご寄付を募集します。賛同して下さる方は、同封の振り込み用紙でお願い致します。

「振り込み先」

・郵便振替口座 00870 - 0 - 135404

・スルガ銀行 修善寺支店 普(2882315)

「寿量の会事務局長 瓜島信行」

護持会役員会

二月二日護持会役員会が開かれ、年間計画や志納金の使い方等承認されました。

年間計画

詳細は別紙にてお配りします。墓地の清掃や境内作業も予定日を入れてあります。またインターネットのホームページにも掲載していますのでご覧ください。

書院台所外、下屋設置

書院台所の出入口に下屋を設置します。

お会式等の人寄せの時に、外で総菜の準備をしていました。雨が降ればビニールテントを張って支度してもらいました。そこで下屋を付け、足元もコンクリートにして、働き易くします。また下屋は思い切って書院裏口まで広げ、使い勝手を更に良くします。予算は約八十万円、五月には完成の予定です。

境内整備作業

三月十三日、小川地区の皆さんがご奉仕して下さいます。駐車場の南斜面の雑木整備を予定しています。また十二日講の有志の方々も参加して下さいます。

寿量の杜、植樹、整備



シャクナゲの右下に寿量の塔

今年は、天城シャクナゲ、イロハもみじ、サルすべりをそれぞれ十本、植樹しました。これからも時間をかけて整備し続けていきます。

トピックス

身延山輪番奉仕

東部宗務所主催、身延山輪番奉仕が三月二十七日に行われます。当山から三十人余の方々が参加して下さいます。

毎年、これだけの方々に参加して下さい、とても嬉しいことです。護持会役員さんや皆さんが声を掛け合っているんだなあと、有難く思っています。何時も、ありがとうございます

ます。

私はその前日、当山で仏前結婚式があり、その片付けやお詣り等で行けないのです。これだけの皆さんが参加されるのですから、私もぜひお伴したいのですが残念です。副住職は参加します。お祖師さまへのご奉仕、宜しくお願い致します。

星祭

一月三十日(日)星祭、今年も大勢のご祈願の皆さんで賑わいました。

私たちは日々人事を尽くして努力し、善き人生を創っているのですが、人事を超えた天の力、星の力というものがありません。

そこで、諸天善神、今年の自分の星にご祈願して悪いものは取り除き、善き運勢をどうぞ祈願しました。



水行して身を清めます



本堂一杯の皆さん

当日は、節分にちなんで、特製太巻き寿司「恵方巻き」が、ご祈願主に配られました。

第一墓地 掃除用具庫新設

第一墓地の掃除用具入れが新しくなりました。



以前のものは西の佐藤藤雄さんが、昭和五十七年から五回に渡り設置、清掃用具も揃えて下さいました。当時、清掃用具は各自で持参していましたが、大変に

重宝し、皆さんが喜んでくれました。それから約三十年、扉の具合が悪くなったので、足がぐらぐらしたりしてきました。そこで護持会長の山下一さん、総代の佐藤雄一さんが、新しく設置して下さいました。大きさといい、色といい墓地にマッチしたものです。

四年前には、第二墓地の用具入れを、元村の山下要さんが設置して下さいます。皆さん、ありがとうございます



洋明さんのおはなし

先日、子供たちが春の訪れ「フキノトウ」を母と取って来ました。また境内では鶯が、お彼岸に皆さんを「ほく法華経」とお迎えできるよう、日々の修行に励んでいます。

*

私は楽観的な人間ですが、悩みごと、心配ごとに埋もれながら毎日を送っています。「何とかなるさ」と思いながらも、何とかならない事もあるのが現実。そこにはいつも悩みや心配がつきまといまいます。何とかならない時は、その思い通りにいかない現実を受け止めるために、また悩み苦しみます。悩み・心配ごとが一つもない人はそうはいないでしょう。

そういう方はきっと仏さまだと思えます。

その仏さまは慈悲というお心で我々を見守っていて下さり、私たちが何時、何をして、何をしないのかを知っていて、それぞれの器に応じて、人やものに成り代わり、私たちにいろいろなことを教えて下さいます。そして毎日皆さんを支え応援してくれるのです。

*

今思い通りにいかないことがあることは仏さまが、私たちの気持ちを強くする為、器や人間性を大きく育てる為、その人に必要だからこそ歩ませてくれる道なのだと思います。だから「人生に無駄なことは何も無い」とは本当なのです。うまくいかない時はそう思えなくても、いつか必ず無駄ではないと思える日が来ます。

ただ私も、どうしても自分中心のところがあり、そのことに気が付かないことが多いのです。思い通りにいかない事も仏さまの示してくださった道と思えば、人生の修行として向かいあえるのですが。ひよつとしたら、そのことに気が付かない我々を見て、仏さまも時にハラハラしながら見守っていて下さるのかも知れません。

*

この悩みや心配の無いことを安心といいます。心が安らぐ世界です。皆さんは、どんなとき安心していますか？ 家族や大切な人といるとき、友人といるとき。

時に欲を満たすことや、好きなことに没頭するとき。でもこの欲を満たす場合の安らぎは一時のものでしょうか。次の欲が出てくるもので、欲を断ち切るまでは永遠に心が満たされることはないと思います。

*

私は、本堂で手を合わせているときが一番の安心です。それは、自分はひとりではない。誰かに、何かに支えられ、守られていると感じることが出来るからです。それが仏さまや諸天善神であったり、ご先祖さまであったり、家族であったり。今の科学では説明できない仏さまや諸天善神の目に見えない力だと思えます。信心があればなおさらです。

この不可思議なものが本堂にはあります。どんな時でも仏さまや諸天善神が、変わらぬお姿で我々を迎えてくださいます。

混沌とした現代で安心を何に求めればいいのかと思う方、ぜひ一度本堂で仏さまと向かい合ってみて下さい。



なづちゃん

御志心納金「一月〜三月」

百万円 清水 森野隆史殿 尊母七七日記
三十万円 川崎市 山下茂樹殿 尊母葬儀
十万円 清水 伊藤政男殿 尊父七七日記

現物奉納

第一墓地清掃用具庫 清水 山下 一殿
西 佐藤雄一殿